

# 福井県議会議員

しみず とものぶ



# 清水智信 NEWS-04



## 誇れる郷土に 情熱を

清水智信事務所: 〒910-0837 福井市高柳3丁目2801  
TEL.0776-52-2630 FAX.0776-52-2021 E-mail:tomonobu0628@movie.ocn.ne.jp

# 絆、活力、郷土愛

- ★不妊検査等への助成や限度額の引き上げなどにより不妊治療をしやすい環境にするべきである！
- ★サウルコス福井や福井ミラクルエレファントに対し、**県民・民間・行政が連携して応援する組織・仕組みをつくるべきである！**
- ★プロスポーツチームを福井に誕生させるべきである！
- ★県内大学生の地元定着率を高めるために、**県としては国への働きかけを行い、福井大学に対し、県としても独自の支援制度の創設などを検討すべきである！**
- ★福井県のコンベンション誘致に対する補助上限を上げるべきである！
- ★教育委員会からスポーツを切り離して新たなスポーツ課の創設、福井県の賑わいづくりのソフト面を担当する課を創設すべきである！

## 一般質問

■2017年12月6日  
U・イーターン、婚学、不妊治療、サウルコス・エレファントを地域資源に、いちほまれについて

■2018年2月28日  
雪害対策、人口減少社会、企業主導型保育、キャリア教育について

■2018年6月28日  
人生100年時代に向けて、福井北インター周辺の企業誘致、人手不足対策、災害時(雪害)の市町支援、恐竜博物館の修繕・改修等について



## U・イーターン事業について提言

●清水智信：国は平成26年度から地方創生関係の交付金を創設し、地方公共団体の自主的、主体的かつ先導的な事業を支援しております。本県において、地方創生関係の交付金を活用して新たに始めたU・イーターンの事業と、その効果についてお伺いします。

●西川知事：福井県では、この交付金を活用し平成27年度6月にふるさと福井移住促進機構を設けております。福井県の社会人のU・イーターン者数は、機構の設置前である26年度が361名でしたが、28年度には623名と2倍近くに、学生のU・イーターン就職率も、調査を始めた14年度以降最高の29%となっております。また、全ての地方に共通する課題であり、国の責務として大学、企業が東京に一極集中する国土構造を是正するための様々な施策がさらに重要だと思っております。

●清水智信：先日、東京交通会館内にある、ふるさと回帰支援セン

## 婚学について提言

ターに行き、福井の職員の方の話も聞いてきました。U・イーターンの相談件数も年々増えており、特に今は20代から30代が非常に多く相談に来られるとのこと。本人にアピールはもちろん、親や家族をU・イーターン政策に生かす取り組みをもっと強力に推し進めるべきと考えます。

## 人口減少社会について提言

●清水智信：人口減少社会において、しっかりと結婚を考えたらい、結婚し子供を産み、出生率を上げることは非常に重要なことです。それから、しっかりと結婚、出産というものを自分の人生においてどういふものかを考え、離婚率、また晩婚化を減らすことも非常に大切なことです。もっと多くの高校や大学等で婚学を広めるべきと考えますが、所見をお伺いします。

●総合政策部長：結婚後の生活を具体的に想像してみる婚学という手法は、結婚や子育てといった将来のことについて若者が現実感をもつて考えるためには有効であると

もって考えるためには有効であると

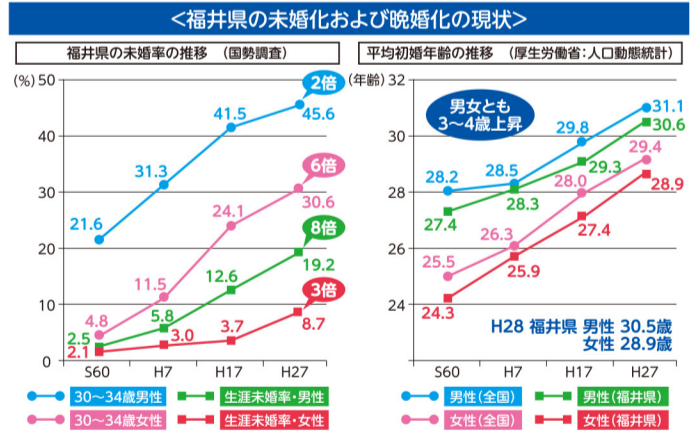
## 不妊治療について提言

●清水智信：人口減少社会において、今後、出生率を上げるためにも不妊治療がますます重要になってきていると考えます。そして、早期に不妊治療にとりかかれるよう、不妊検査等への助成や限度額の引き上げなどにより不妊治療をしやすい環境にするべきと考えますが、所見をお伺いします。

●西川知事：これからは子供を持つことを希望する夫婦が早い段階で適切な対応ができるよう、夫婦での早期の不妊検査への支援など、検査なども含めてさらなる充実について検討してまいります。

## 不妊治療に対する提言

●清水智信：不妊治療に対する世の中の意識を変えるような取り組みが必要ではないかと考えますが、所見をお伺いします。



不妊治療について今年度から特定不妊治療に加え、一般不妊治療も検査で3万円、治療で2万円を上限に1回限り補助されます。2017年12月議会での晩婚化の現状の中、特定不妊治療以外の一般不妊治療や不妊検査の補助制度を提言させていただき、今回の予算案で一般不妊治療や不妊検査に対する助成制度も盛り込んでまいりました。中部地方では初めこれだけでも妊活しやすい、また早期に妊活できる環境になれば良いです。

理解広げ、受診しやすく

県議・清水さん夫妻に聞く

子どもが生まれるのは奇跡

原因見つければ道が開ける

福井新聞(2018年4月23日付)

●健康福祉部長：働きながら不妊治療を受けやすくするためには治療の内容や、職場内でのプライバシーの保護について企業の事業主が理解し、職場環境に配慮していただくことが重要であります。今後、企業の職場管理者や人事担当者を対象にセミナーを開催して、仕事と不妊治療の両立について職場の理解を求めるとともに、市町と協力し、相談窓口や各種助成制度を広く周知するなど不妊治療に対する一層の理解促進に努めてまいります。





サウルコス・エレファンツを地域資源にするについて提言

●清水智信：福井県スポーツ推進計画にはプロスポーツ、企業スポーツの振興と掲げられています。県はサウルコスやエレファンツ等のプロチームについてどのように考え、どのように支援を行っているのか伺います。

また、福井県独自のセカンドキャリア施策づくりという意味でもサウルコスやエレファンツをしっかりと指導・支援する必要があります。考えますが、所見をお伺いします。

●教育長：県では平成25年度からサウルコスやミラクルエレファンツに対し、スポーツ教室を開催する企画業務や選手カード作成などの支援を継続しております。プロスポーツの誘致や支援にあたっては大都市と比較して人口や経済規模が小さな地方都市の場合、スポンサーの確保をはじめ、長期的な安定的な運営見直しなど特に慎重な検討が必要であります。プロ選手のセカンドキャリアづくりについては、経済界やプロスポーツ団体が中心となって検討されるべき課題であり、今後他県の事例も研究してまいりたいと思っております。

●清水智信：高知県では県民に愛され、県民が支える真の県民球団にするためファイティングドッグス県民会議を設立し、県民・民間・行政が連携して応援する組織をつくっていますが、福井県もサウルコスやエレファンツに対し、民間と連携して応援する仕組みをつくるべきと考えますが、知事の所見をお伺いします。

●西川知事：まずは福井国体に向け、県内スポーツ全般にあたり支援を強化していますが、プロスポーツの支援については、今後の県民の盛り上がりを見極め、またこの国体の後をどうやってスポーツを盛り上げていこうかというところに深く関係いたしますので、経済界の皆様とも相談をし、どんなことができるかぜひ様々な観点から検討してまいりたいと考えています。

●清水智信：福井県にプロスポーツを誕生させる議員の会が発足しました！半年前から考えていたので発足できて良かったです。地方創生は箱物をつくるだけでなく、地域の誇りや人を育てることも非常に大事なことです。行政でやりたいこともなかなかできない、地域に誇りを持たせることや賑わいをつくることは、プロスポーツなら必ずそれらをもたらしてくれると信じています。事務局長は私なのでこれからしっかり頑張っていきます。

福井のコンベンション誘致の取り組みについて提言

福井のコンベンション誘致の取り組み補助があまりにも他県と比べて弱いため補助の上乗せを提言させていただきます。そして、2019年度より国内会議は50万円から900万円に、国際会議は150万円から1,200万円まで補助上限が上がりました。しかし、これは狭義（会議のコンベンション）にしか補助がなく、広義（スポーツイベント、展示会、文化イベント、フェスティバル等のコンベンション）には補助がない状況です。せつかく国体に向けていろいろと施設整備をしたので、さらなる広義のコンベンション誘致に対しても補助が出るように働きかけて交流人口の拡大を図ってほしいと思います。

「福井にプロスポーツ誕生を」 県議全員で「会」発足

県議36人全員による「福井県にプロスポーツを誕生させる議員の会」が10日発足した。県内にプロスポーツを誕生させ、県民の誇りとなるシンボルとする。スポーツ文化や地域経済の振興、競技力向上につなげたい考え。まずは民間企業・団体、行政に支援を呼び掛けていく。県会議事堂で会合があり、仲倉典義議員（県会自民党）が会長に就任した。副会長に鈴木宏紀副議長（同）、事務局長には清水智信議員（同）が選ばれた。



福井県の賑わいづくりの担当課創設について提言

賑わいづくりの組織体制について福井県の賑わいは恐竜博物館や年輪施設、朝倉氏遺跡博物館などすべてハード面でソフト面（イベント等）を担当し賑わいづくりをする部署を創設すべきだと提言させていただきます。理事者からも賑わいづくりを担当する主たる部局を定め、交流人口や経済効果の拡大につなげていきたいとの答弁をいただき、2018年度以降に決める見通しとなりました。

にぎわいづくり 担当部局決定へ 県会予特委で県方針

県会予特委は13日、予算決算特別委員会を開き、畑孝幸委員（県会自民党）が質問した。「にぎわいづくり」を担う部局は、県や国が主催するさまざまなイベントについて、にぎわい創出の方策を取りまとめる部局を定める方針を示した。担当部局は2018年度以降に決める予定。清水智信委員（県会自民党）への答弁。清水委員は、県立恐竜博物館（勝山市）などの施設を生かすためにソフト面が大切。にぎわいづくりの担当課を創設すべきだ」と述べた。



キャリア教育について提言

●清水智信：Uターン政策としても、もっと多くの高校に北陸技術交流テクノフェアを活用したキャリア教育をすすめる、子どもたちに福井には素晴らしい企業がたくさんあるとわかってもらえるようにすべきと考えますが、所見をお伺いします。



清水智信：また、公立高校だけでなく、私立として県内大学にも声をかけ、テクノフェアを活用したキャリア教育を実施していくべきと考えますが所見をお伺いします。

●産業労働部長：今年度行われた北陸技術交流テクノフェアですが、私立高校から50名、そして大学高専などからは、ゼミ研究室を通じて約300名の参加

がありました。来年度は各学校の年間行事予定が固まる前に、テクノフェアの実行委員会とともに各学校を個別に訪問して、キャリア教育への活用を働きかけていきたいと思います。

●清水智信：福井大学に対し、県としても独自の支援制度の創設などを検討し地元定着率向上を図っていくべきと考えますが知事の所見をお伺いします。

●西川知事：福井県としては若者の県外流出抑制のため、27年度から若手経営者との交流会など県内就職促進に対する独自の補助制度を設けております。また、来年度に新規事業として県産業情報センターの中に最新のAI機器やソフトウェアを備えたAIビジネスオープンラボを設置し、県内大学の教育研究に活用していただくほか、起業をチャレンジする県内学生の一助としてスタートアップ支援をここで行うことを考えています。



福井しあわせ元気国体2018 福井しあわせ元気大会2018

皆さま、いつもあたたかいご支援を頂き、誠にありがとうございます。今後共、愛する故郷「福井」の為に、全身全霊で頑張っておりますので、今後も変わらぬご支援を頂けますよう、宜しくお願い申し上げます。尚、新着情報等は下記フェイスブックや本通信の活動報告等に掲載してまいります。ご意見やご要望は、下記までお気軽にご連絡下さい。

●FAX:0776-52-2021  
●E-mail: tomonobu0628@movie.ocn.ne.jp

清水智信 Facebook

